

令和６年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和７年２月５日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
基本的な知識・技能が確実に定着し、思考力・表現力が豊かな子の育成	基礎・基本的な知識・技能の習得	・授業や朝の活動を通して、基本的な計算や漢字の読み書きができるようにする。	A	B	確かめテストに取り組むことで基礎的な学習を振り返ることができた。 お話タイムの積み重ねにより、少しずつかかわり合いが増えている。 校区には魅力的な場所や施設が多い。大池公園や梅林園など「もの・こと」について興味をもって取り組むことができたが、「ひと」との関わりが少ない。	A	教職員がもっと向上したいという気持ちがよく表れている。 今以上に地域の力に頼っていると思うが、依頼の仕方が難しいのだと思う。 地域と学校との共通理解、情報共有が大切。	お話タイムだけでなく、「かかわり合い」を意識した授業づくりを継続して行っていく。かかわり合いが自然に生まれるように、子どものやりたい気持ちを大切にしたり、目標を明確にしたりしていく。 人材が必要な授業や活動ごとに、その都度ボランティアを依頼するシステムをつくっていく。
	思考力・表現力の育成	・「かかわり合いを大切にした授業づくり」の授業実践課程で、「かかわり合う」場面を仕組み、効果的な支援を行うことで学習を深める。	B					
	学習意欲の喚起	・身近な向山校区の「ひと・もの・こと」にかかわる活動を展開し、課題を自分事として捉えることで、主体的に取り組む姿勢を育てる。	B					
豊かな体験活動を通して、教師や友達との人間関係を深める子の育成	心の教育の充実	・あいさつの場面を計画的、具体的に示し、あいさつを推進する中で、すすんで気持ちのよいあいさつのできる子を育てる。 ・学校内だけでなく、学校外でも積極的にあいさつのできる子を育てる。 ・ふれあい班活動の異学年交流等を通して、相手を思いやる気持ちを育て、子ども同士の信頼関係を深める。	B	B	校内では挨拶できる子が増えるが、朝は挨拶する子が少ない。ふれあい活動は他学年と親しくなるよい機会であった。 異学年交流をすることで、年上に対する態度や年下に対する接し方を学ぶことができた。高学年としての自覚が芽生え、主体性がついてきている。その反面、低学年がやや受け身になった。	A	子どもたちは挨拶をしている。最近は大きな声や元気な挨拶は難しいが、挨拶の質はあがっている。子どもは素直なのでできたことを褒めるとよい。学校の更にも上をめざす取り組みに期待する。	挨拶は、自分から進んで行うようにしたいが、最低限、挨拶されたら返すように、教職員が根気よく手本となって習慣化を図る。 道徳教育について、自分事として捉えたり、行動したりできるように、長いスパンで取り組んでいく。
	コミュニケーション能力の育成	・ふれあい班活動の異学年交流等を通して、相手に応じたコミュニケーションが図れる力を高める。	A					
体力の向上・心身の健康の保持・増進に努める子の育成	体力づくりの推進	・教科体育、体育的行事、及び児童委員会の自主的な取り組みにおいて、体力づくりを計画的に実施し、子どもの体力向上を図る。 ・授業の開始時に筋力トレーニングを行い、確実に基礎体力を定着させる。	A	A	体を動かす楽しさを味わい、運動が好きなようになった子がいる。向山つ子運動を継続することで体力がついてきた。 健康発見カードは保護者も見てくれるので、生活を見直すよい機会になった。	A	やったことを見える化している健康発見カードの取り組みはすばらしい。達成感が得られ、子どもたちのやる気が出る。	誰でも同じ視点で指導できるように、年度初めに「向山つ子運動」のポイントについて、教職員間で確認する。 健康発見カードは、現状に合った内容に更新していく。保護者の協力が手厚いので、より自分事として捉えられるようにしていきたい。
	健康づくりに関する取り組みの充実	・生活チェック週間、学校保健委員会などを通して、規則正しい生活習慣の確立を図る。	A					
安全安心な教育活動の推進	安全教育と防災教育の推進	・避難訓練や防災学習を通して、学年に応じた行動力・判断力を養う。 低・中学年：自分の身を守る。 高学年：他の人にも気を配りながら避難する。	A	A	子どもたちが避難訓練に真剣に参加し、命を守るための行動ができている。いろいろなパターンで訓練を行い、行動の仕方を学ぶことができた。	A	さまざまな場面を想定した避難訓練の実施はありがたい。地域と連携して向上させたい。	保護者の混乱を招かぬよう、スムーズな引き取り方法を計画、実践していく。
家庭や地域との連携	生き方教育やふれあい活動の推進	・保護者や校区自治体、各種団体等地域社会と連携し、人とのふれあい等を通して心の育成を図る活動を推進する。	A	A	出前授業など、外部講師に指導してもらうことは子どもたちにとって新鮮な体験となっている。 メール配信は大変便利。保護者からの要望も高い。 ボランティアのかたの協力は大変ありがたい。	A	情報を発信する側は大変だと思う。情報の受け手にも認識が必要。	メール配信は更に進めていきたい。また、日々更新している学校 HP も今以上に閲覧、活用していただけるよう情宣していく。 人材バンクを更に充実していく。地域のかたが参加しやすいシステムを考えていく
	学校からの情報発信	・学校のHP、メール配信、学校新聞により教育活動や保護者や地域のニーズに応じた内容を伝え、理解を得られるように努める。	B					
	ボランティア活動の充実	・学校教育支援ボランティアの充実を図り、教育活動の充実に努める。	A					
職員評価制度を活用し、教職員の業務改善	教師の授業力の向上	・気軽に授業参観を行う。積極的な授業研究、授業公開を行い、視点を明確にした効果的かつ効率的な研究協議会を積み重ねる。	A	A	授業を参観したり、講師の話聞いたことと、1年を通して学ぶ機会を多くもてた。 アレルギー、ICT など校内で多くの研修があり、新たな視点をもって業務に取り組めるようになった。 若干ではあるが昨年度より、在校時間が短くなっている。	A	授業力の向上や研修の推進の成果について、自信をもっている。正しく評価している。 業務改善については、保護者理解もあって成立する。PTAでも協力していきたい。	互いに高め合う雰囲気継続させていく。教職員から要望のある研修を積極的に進めていく。 定時退校日を増やし、引き続き、時間に対する意識を高めていく。会議の効率化を図る。
	主体的な研修の推進	・危機管理研修及び今日的な教育課題等の研修を充実させ、意識や資質の向上に努める。	A					
	教職員の業務改善の推進	・個人裁量日および定時退校日を計画的に位置づけ、校務支援システムの効果的活用を図り、教職員が効率的に業務を行えるよう努める。	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】